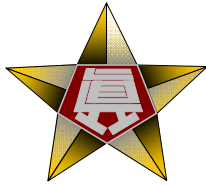


## 平成 25 年度北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：釧路
- 2 事例報告学校名：厚岸町立真龍小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 渡 辺 仁 平
- 4 キーワード：学力向上を目指した取組



# 厚岸町立真龍小学校

～子どもの学び合う姿を求めて～

本校は、豊かな自然環境や牡蠣を代表とする海の幸、開基 210 余年の歴史と文化が共生する厚岸町のほぼ中央に位置しています。官庁街と商店街に囲まれ、校区は近年の統廃合により厚岸町のほぼ西半分を占めています。昭和 60 年には開校 100 周年記念式典を挙行し、平成 19 年に現校舎が新築されました。学級数 14 (特別支援 3)、児童数 296 名で、現在の規模が推移していく見込みです。

本校を卒業した保護者や地域住民が多く、地域に支えられ、地域と共に歩んできた歴史と伝統があります。開校以来、望ましい学級風土の中で知・徳・体の調和のある発達に応じることを重視してきた学校づくりの信条を継承していますが、ここでは本校の学力向上の取組の一端を紹介します。

### 1 はじめに

教育課程は、子どもが「学び合う」姿を想定し、編成・実施しています。また、日々の学習活動においては、各教科等における学習の結果として求める諸能力を子どもが確実に身に付けることを重視しています。

また、隣接する真龍中学校の生徒は、その 100%が本校の卒業生であることから、中学校の重点である「問い」への主体的な関わりを求める資質や能力が育成できるよう本校の日常の教育活動を計画し、実践しています。

### 2 基礎・基本の確実な定着を図る

#### (1) 朝学習の時間を設けています

毎週火曜日から金曜日まで朝の学習時間を設定しています。漢字や計算の反復・習熟を計画的に実施しています。また、毎月 1 回、チャレンジテストを実施し、結果を分析して補充的な問題を宿題として出したり、放課後の学習会を設けたりしています。さらに、長期休業前に基礎学力テストを実施し、その結果を長期休業中のサポート学習へとつなげています。

#### (2) 個々に学びが成立することを大切にしています

子どもが自ら学ぶ意欲を高める教材の構成、ものの見方や考え方、感じ方を引き出す工夫など、一人一人の状況に応じた指導に努めています。

また、子どもの考えなどの根拠が明らかになる問いかけを工夫し学びのつまずきや過ちが生きる指導を工夫するとともに、子どもが目的をもって活動できる教材とその活用を工夫して、子どもが自分で結果を導き出すことを大切にしています。

#### (3) 学習の定着状況等に応じてきめ細かく指導しています

全国学力・学習状況調査や町内一斉に実施している学力検査



などの結果と分析を踏まえ、2年生以上の全学年において習熟度別少人数指導を実施しています。また、学習進度が著しく遅い子どもが在籍することから、子どもの状況等に応じた個別指導がより効果的になるよう通級指導を取り入れて実践しています。



### 3 日常の教育活動を通して教員の実践的な指導力を高める

#### (1) 学び合う子を育む校内研究を推進しています

校内研修の成果は日常実践に生きることが大切であると考え、子どもが考え、課題を解決したり、豊かに表現したりする授業づくりに取り組んでいます。全教員が日ごろの授業を公開し合い、教材の組み立て方や発問などの支援の状況について協議を深めながら研究を積み上げています。



#### (2) 巡回指導教員を活用して授業づくりに取り組んでいます

教員の58%が初任者層と期限付という若手が大変に多い学校です。先輩教員の相談や指導などは、日常的に行われていますが、若手教員の指導力を効果的に高めるために、本校に配置されている巡回指導教員が若手教員とTTによる授業、公開授業や教材研究などの授業づくりの助言や指導をしています。



### 4 家庭や地域と共に子どもを育む

#### (1) 校区内の中学校と共に取り組んでいます

義務教育9年を見通した子どもの成長を小学校と中学校が手を携えてより豊かにするため、校長や教頭はもとより、それぞれの学校の担当者が定期的に話し合っています。「9年間で真龍の子を育てる」という意識を共有し、小学校と中学校のそれぞれの重点を踏まえ、学び方や学習規律の重点、授業改善の方策を共通化して取り組んでいます。授業を交流し合いながら、互いに成果と課題を確認しています。

#### (2) 家庭学習がより充実するよう取り組んでいます

家庭学習の時間の目安として「学年×10分」以上となるよう家庭の協力をお願いしています。学習の進み具合に応じて、プリントや学習ノートによる予習・復習に取り組んでいます。学年が上がるにつれて学習ノートによる家庭学習の比率が多くなるようにしています。年に3回、家庭学習の状況を保護者から提供してもらって改善の度合いを確認しています。

#### (3) 読書に親しむ子どもとなるよう取り組んでいます

校区内にある情報館（社会教育施設）と連携して、毎月1回、3年生以下の子どもを対象に読み聞かせを行っています。子どもたちはスタンプカードを持って参加しています。子どもの意欲がより高まるように情報館の方々もいろいろと工夫をしながら実施しています。

また、読書週間には地域ボランティアの「真龍おはなし隊」による朝の読み聞かせを実施しています。



### 5 おわりに

子どもの豊かな成長のために、家庭、地域、学校が役割を果たし、『子どもが期待をもって登校し、希望を膨らませ下校する学校づくり』に向けた教育実践を積み上げていきます。